郡市医師会長プロフィール

空知医師会

明円　　亮 先生

加地謹二・久保茂雄・新川輝朝・大西洋平〔空知医師会歴代会長、いずれも故人〕とオールド・ボーイには懐かしいビッグネームの系譜をたどる第11代会長に若い明円亮先生が就任されました。先生は生粋の空知っ子、歌志内市の有力企業家明円一族の出自で、砂川南高を経て旭川医科大学を昭和56年に卒業された内科医です。

砂川市内で昭和63年に医院を開業されて以来、持ち前の若さと勤勉さをフルに発揮されながら、地域医療はもとより警察検案医・産業医・介護認定審査委員会委員同委員長として、そのほか数多くの職務を精力的にこなしながら、この度当医師会会員の衆望に応えられて、会長・新制一般社団法人空知医師会初代会長に就任されました。

ご高承のごとく地域基幹病院である砂川市立病院は、一昨年の新病院本館落成を契機として名実ともに急成長を続けており、医師数も90名に達しようとしております。砂川市内の開業医に市立病院OBが多くおられた関係上、昔から病診連携が良好でありましたが、今や当地域は多岐にわたる地域住民を巻き込んだ包括的連携のモデルとして、全国の医療関係者より注目を集めているところであります。若き新会長にとっては、まさに持てる手腕を発揮される舞台が整っていると言えましょう。絶大なる成果を挙げられることをご期待してやみません。

空知医師会顧問　小泉　　洌

上川郡中央医師会

藤原　正文 先生

上川郡中央医師会の新しい会長に、藤原正文先生が本年４月１日に就任されましたのでご紹介いたします。

先生は昭和29年生まれ(札幌市)。昭和54年旭川医科大学（一期生）･昭和58年旭川医科大学大学院（肺循環に関する研究）をご卒業後、同大学の第一内科に入局されました。昭和58年市立旭川病院勤務、その後、士別総合病院、埼玉県の狭山病院（PTCA等当時国内最先端の技術の習得を志す)、国立札幌病院などに勤務。医療法人延山会　西成病院副院長を経て、平成10年循環器内科と人工透析（ベッド11床）を診療の中心とした美瑛循環器・内科クリニックを開業されました。当医師会では、平成11年からこの春まで医師会長を務められた椎名弘忠先生を理事として支えてこられました（椎名先生長い間ありがとうございました)。

先生は学生時代バドミントン部に所属、ゴルフも現在月に１～２回、日曜日にプレーされますとともに、TOEICも趣味の一つとされておられます（先日900点を超えました)。ご家族はご長女が今年桐朋学園大学をご卒業になり、現在ピアノの研鑽中とのこと。

上川郡中央医師会は、旭川市を取り囲むように位置する８町からなっておりますが、旭川市医師会会長の山下裕久先生と旭医大第一内科の同門というパイプを生かして、旭川市医師会とのより緊密な連携をはかってゆきたいと抱負を語っておられます。

新設された旭川医大の第一期生として、常に先輩のいない中、後輩医師たちをリードしてきた先生ですので、これからの当医師会と当地域の医療もしっかりと牽引して行っていただけると期待申し上げております。

先生におかれましては、ますますご多忙になることと思いますが、どうぞ健康に留意されご活躍されますことを祈念いたしましてご紹介とさせていただきます。

北海道医報通信員
上川郡中央医師会理事　相馬　光宏

釧路市医師会

齋藤　孝次 先生

平成24年６月25日に開催された釧路市医師会定時総会において、齋藤孝次先生が前会長・杉元紘一先生の後任として釧路市医師会の新会長に選出されましたのでご紹介いたします。

斎藤先生は昭和23年生まれの64歳。昭和47年札幌医科大学を卒業され、札幌医科大学脳神経外科学講座に入局、その後砂川市立病院、市立札幌病院、旭川脳神経外科病院、市立釧路総合病院など道内各地で勤務された後、平成元年11月に釧路脳神経外科病院を開業されました。現在は社会医療法人孝仁会として、釧路孝仁会記念病院理事長をはじめとして25もの施設を統括されており、さらに社会福祉法人悠和会として特別養護老人ホームなど５施設をも運営されており、まさに地域に根ざした医療を幅広く提供、実践され本当に多忙な毎日を送られています。

医師会においては、平成９年４月より理事に就任され４期８年務められました。その後、平成17年４月より副会長としてご活躍されましたが、先生が役員として在籍されていた間釧路市医師会は、地方での医師不足問題のあおりを受けた釧路市医師会病院の運営移譲問題、夜間急病センターの開設、医師会看護専門学校看護学科の開校、ドクターヘリの運航、医師会看護学校准看護学科の閉校、健診センターの運営などさまざまな問題を抱えておりました。そのような中でも齋藤先生は、歴代会長の素晴らしいサポーターとして腕を振るわれてこられました。特に道東地域の救命救急の充実を図るべく、札幌の手稲渓仁会病院に次いで道内２機目の導入となったドクターヘリを誘致する際もリーダーシップを発揮され、ご自身の釧路孝仁会記念病院を基幹連携病院として位置付け、今日まで順調に運航されております。また、医師会と市行政との協働により開設された夜間急病センターも新たな救急医療体制として地域住民の要望に十分に応えられるようご苦労されてきました。

さて、齋藤先生のご両親は根室市の出身で、お父様は日本電信電話公社（現NTT）社員であったため、まさに転勤族で小中高校と合わせて９回も転校を繰り返したそうです。先生はお父様の影響を大きく受けたそうで、軟式テニス、スキーなどのスポーツの選択や、趣味の読書や囲碁も影響されたとお話しされていました。中でもお父様の読書のジャンルは新しいものから古典まで相当幅広く、その量も膨大だったようですが、そのお父様も昨年12月に他界されました。先生自身まだまだ未熟者で父親を超えられないでいると申しますが、いずれは父に追いつけたらいいと考えているそうです。医療法人孝仁会という巨大な組織のトップに立つ齋藤先生ですが、今頑張ってやっていけている力の源には恵まれた「友人」の存在が大きいようで、今でも大学時代の友人には助けられたり応援されたりと大変感謝しているそうです。人と人とのつながりを大切にする先生が孝仁会を引っ張っていくうえで一番大変だったことは「人材の確保」であり、また大変恵まれたことは「素晴らしい人材に巡り会えたこと」とおっしゃっていました。釧路市医師会では特に開業外科医会の諸先輩の高潔な思想に随分と感化され、齋藤先生の今の医師会活動の原動力になっているようです。

末筆ではありますが、先生におかれましては会長に就任され増々ご多忙になると思いますが、今後とも健康に留意されご活躍されますことを祈念してご紹介とさせていただきます。

北海道医報通信員
釧路市医師会理事　中村　達人

札幌医科大学医師会

平田　公一 先生

平成24年４月に、平田公一附属病院長が札幌医科大学医師会の会長に就任されました。平田教授は、美幌町のご出身で、札幌北高等学校をご卒業後札幌医科大学に進学されました。昭和49年に札幌医科大学を卒業され、同大学の大学院医学研究科に進まれました。昭和55年に外科学第一講座助手になられ、その後、米国カリフォルニア州La Jolla癌研究所でvisiting assistant professorとして研究生活を送っておられます。ご帰国後、昭和63年に札幌医科大学外科学第一講座講師、そして、平成３年に同講座教授に就任されました。消化器外科学（特に肝胆膵）および内分泌外科学がご専門です。研究においては、肝の再生医学、腫瘍免疫学、臓器保存、癌転移・浸潤などの領域で多くの業績をあげておられます。

日本外科学会、日本癌治療学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会など、数多くの学会の理事、監事、評議員を歴任されるなど、外科系医学会でご活躍されております。厚労省等の指定研究主任研究者として、がん診療ガイドラインの普及やその体制作りに直接関わっておられます。

附属病院では、平成10年から４年間医療材料部長を、平成12年から４年間副院長を、平成20年から２年間手術部長を歴任されるなど、附属病院の要職に就かれて、附属病院の診療と経営の改善にご尽力され、この度、平成24年４月に附属病院長にご就任されました。医学部における学生教育においても、平成16年４月から２年間副医学部長を歴任され、平成22年から２年間は学生部長として学生の教育と生活の指導にご尽力されました。

このように、平田教授は、医学部と附属病院の要職を歴任されておりますので、附属病院における診療と病院経営のさらなる改善と充実、北海道民のニーズに応える先進医療の推進とともに、学生・研修医指導においても力量を発揮されると期待しております。札幌医科大学医師会のリーダーとして、札幌医科大学附属病院の発展に寄与され、北海道内地域医療に大きく貢献されることと信じております。

北海道医報通信員
札幌医科大学医学部長　黒木　由夫

北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

投稿要領

１．原稿の締切

毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。

できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。

２．原稿の体裁と字数制限

⑴　原則として横書きといたします。

⑵　引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。

⑶　誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。

⑷　１回の掲載紙面は、原則として２頁を限度とします。
医報１頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。

⑸　長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。

３．原稿の訂正、返却

次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。

⑴　特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容

⑵　匿名の投稿

⑶　本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）
ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない

⑷　その他掲載に支障がある内容

４．ホームページへの掲載

特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課
TEL 011-231-7661　FAX 011-252-3233
E-mail：ihou@m.doui.jp